



SANSHIN GROUP
Monthly Report on the ESG
Dec.2022

INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report（品質）
4. ESG Report（環境）
5. ESG Report（地域貢献とワーク・ライフ・バランス）
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンハウ

TOP MESSAGE

毎日寒いですね。

北国でこの時期の厄介なものとして挙げられるのが雪です。今回はこの雪を使った取り組みをご紹介します。

雪氷熱利用

冬の間降った雪や、冷たい外気を使って凍らせた氷を保管し、冷熱が必要となる時季に利用するものです。寒冷地の気象特性を活用するため、利用地域は限定されますが、資源は豊富にあることから注目される取組です。

採用例：マンション

世界初の雪冷房マンション。従来、主に農産物貯蔵に利用されることが多かった雪冷房を、このマンション施工以降、居住空間にも活用されるようになったことで知られているそうです。システムは、雪を強制的に溶かし、雪解け冷水を循環させて冷房を行う冷水循環式。平成14年度新エネ大賞「資源エネルギー庁長官賞」を受賞しています（参考：資源エネルギー庁HP）。

TOP MESSAGE

積雪発電

青森市のIT企業「フォルテ」と電気通信大、青森市が連携して捨てる雪をプールにためて電力を生み出す研究に着手しています。雪の冷たさと外気の暖かさの差を利用。雪で冷やされた液体が外気の熱により気化する際のエネルギーなどで、タービンを回して発電します。環境に優しい上、低コストで安全だとして注目されているそうです。但し、大量発電には雪をためる大規模施設が必要になることや、厳寒期の熱の確保などの課題もあります（参考：日刊スポーツ）。

摩擦帯電型ナノ発電機「Snow-TENG」

UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）、トロント大学、マクマスター大学、コネチカット大学が連携し開発した「Snow-TENG」は、雪がモノに触れた時生じる摩擦の静電気を利用するものだそうです（参考：ENERGY FRONTLINE HP）。

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

FIFAワールドカップが閉幕致しました。初の中東、11月・12月の開催となり異例の開催となりました。地上波、インターネットTVなど各々が好きな時間に好きなデバイスで見ることができ、時代は変わったと実感しましたが...、パブリックビューイングに大勢の人が押し寄せたりするところを見ると、人間は便利だけ、合理的なだけでは満足しない不思議な生き物だなあと感じます。(Y.Y.)

SANSHIN Hong Kong

Save the environment, we can't go back to the past to change but we can take action from now to change future, therefore we must think before buying. (J.L.)

CSI

台風の影響と老朽化もあってインフラが十分に回復しておらず、上下水道の工事が続いています。上水は水漏れ、下水(雨水)はつまり、であちらこちらで渋滞が再発しています。ゲリラ豪雨は今の処、特に影響は出ていません。(K.S.)

SANSHINWest

ここ数年海水温の上昇により、伊勢海老が福島県沖でも獲れるようになりましたが、代わりに伊勢付近での漁獲量が激減し、10年前の3倍以上の値段がついているそうです。元々高級な伊勢海老ですが、そのうち食べられなくなるかもしれないと思うと悲しい限りです。(F.H.)

SHINKOWA

最近車のフロントガラスに氷が張り、車を動かす前に氷を解かす作業が必要になる季節になりました。先週までは暑い日と寒い日が交互に来ていましたがもうすっかり冬になりました。秋はどこにいったのでしょうか。またあるところでは、普段はそこまで雪が積もらないのに、大雪になってしまい半日以上の通行止めが続くなど、異常気象が感じられるようになりました。(H.K.)

SC2

土手で野焼きをした男性がお寺を訪れ、ご住職に「これを供養してほしい」と言ったそうです。腕の中には雌の雉。焼け死んだ雉が広がっていた翼の下には、5羽の雛が守られ生きていました。「野焼き禁止」の本当の意味を、男性は雉から学んだことでしょうか。来る2023年が命を大切に一年となりますように。(M.I.)

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

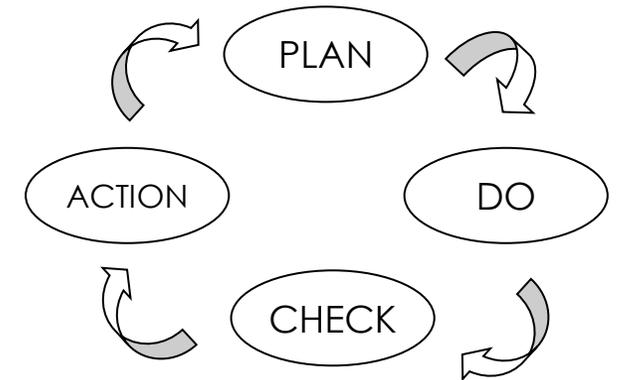
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



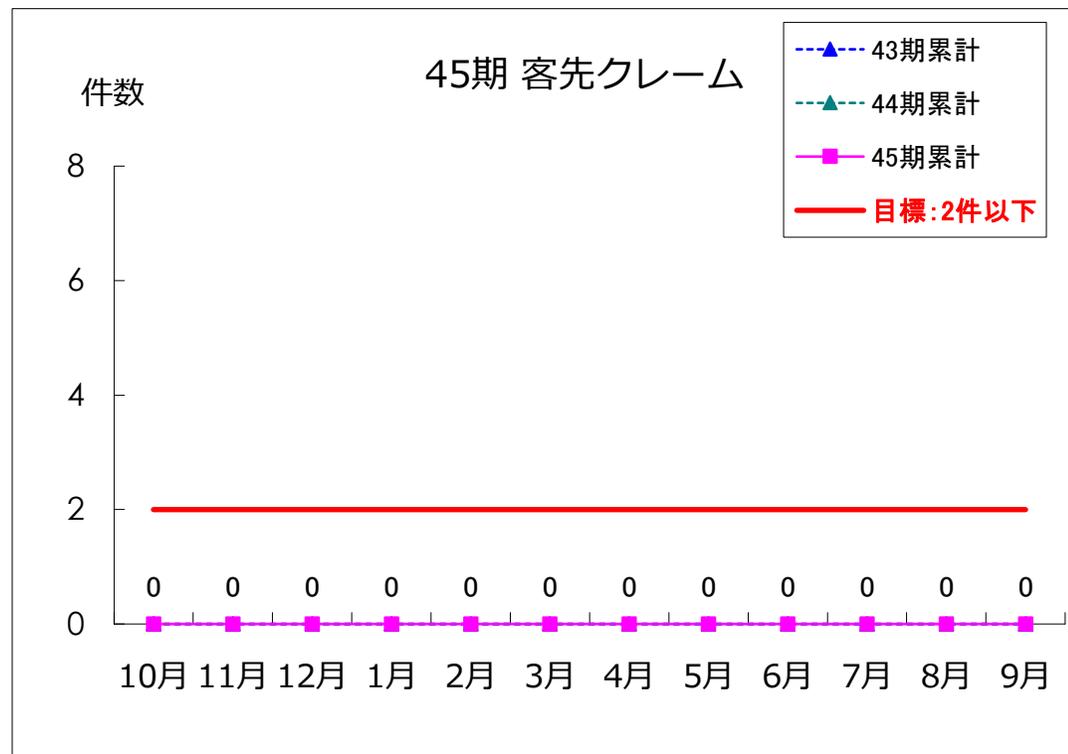
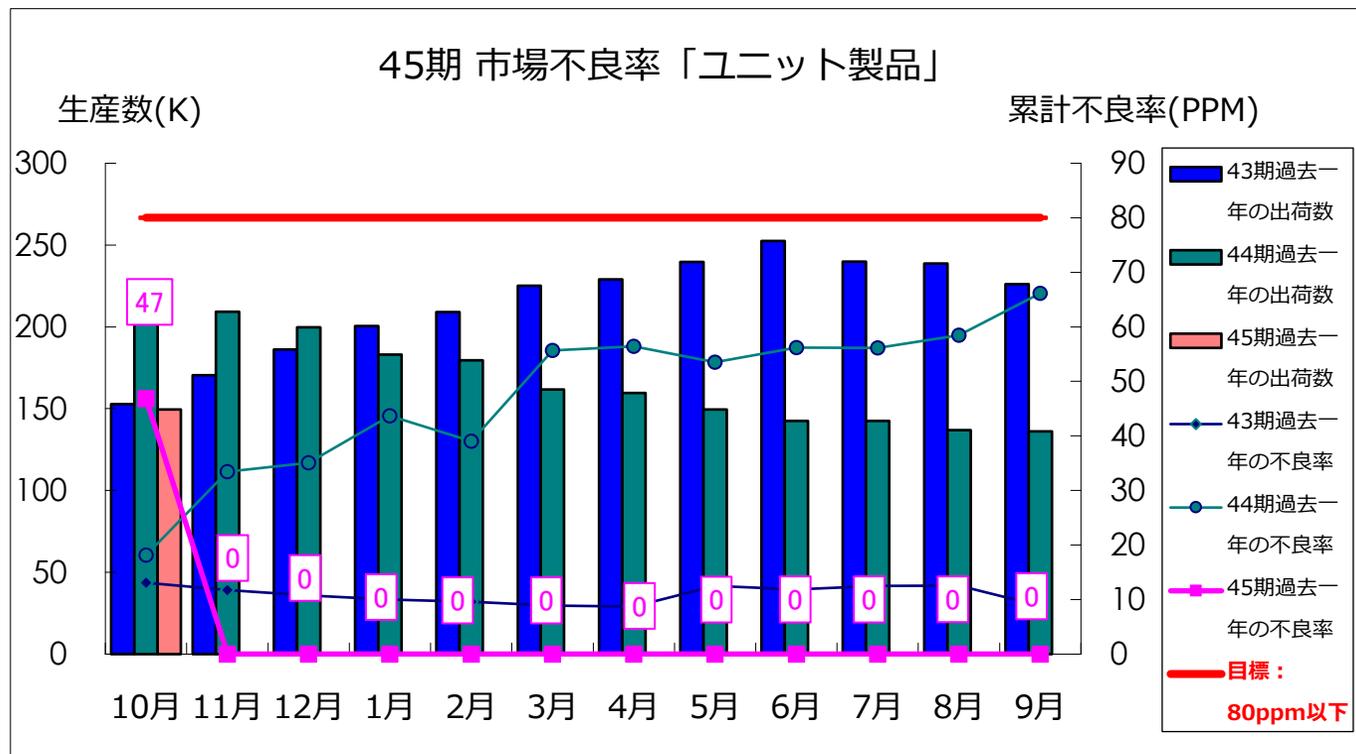
- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

納入品不良率 (目標 : 80ppm)
 45期の累計不良率(解析依頼含む) : 47ppm

客先クレーム (目標 : 2件以下) : 0件



ESG Report (環境)

今月のTOPICS

■米、中国半導体の禁輸拡大 安保懸念で36社・団体追加 YMTCの日本拠点も

バイデン米政権は12月15日、半導体メーカーの長江存儲科技（YMTC）など中国系36社・団体を事実上の禁輸リストに追加すると発表しました。措置は16日付で、YMTCの日本拠点（東京）も対象。米国企業は商務省から許可を取得しない限り、リスト指定企業に対し米国の技術製品などを輸出することができなくなります。ただ、商務省は企業による許可申請を原則認めない方針で、これまでに華為技術（ファーウェイ）や半導体受託生産の中芯国際集成电路製造（SMIC）がリストに指定され、それぞれのスマホ事業と半導体事業が打撃を受けた経緯があります。

米商務省は2022年10月、YMTCなどを含む31の中国企業・団体を、最終用途・需要者が確認できない「アンベリファイド・リスト（未検証エンドユーザーリスト）」に指定していました。対象となった中国企業は一定の猶予期間内に米国の国家安全保障を脅かす活動に関与していないことを示す必要がありましたが、米商務省は、中国企業がこれを証明できないと判断しました。

YMTCはNAND型フラッシュメモリーなどを手がける企業です。23年1月から米下院外交委員会の委員長を務める予定の共和党議員マイケル・マコーン氏は、YMTCをエンティティー・リストに指定するよう商務省に要求してきました。同氏は声明で「間違いなくYMTCはリストに指定されるべきだ。YMTCは中国共産党の軍隊を近代化している企業の1社だ。商務省産業安全保障局はリスト化を一層進め、パートナーや同盟国も参加させる必要がある」と述べています。

今月のTOPICS

■ 先端半導体の対中輸出規制

これに先立つ22年10月、米商務省は先端半導体の中国への輸出を制限する措置を公表しました。先端半導体のほか、関連する米国製の半導体製造装置やソフトウェア、人材なども対象に含め、これらを許可制にしました。ただ、商務省はこちらも原則、許可申請を認めない方針です。これに対し中国は「米政府は中国の台頭を食い止めようとしている」と反発し、中国商務省は米国の対中半導体輸出規制は不当だとし、22年12月12日に世界貿易機関（WTO）に提訴しています。フィナンシャル・タイムズは、米中の技術戦争は一段とエスカレートしたと報じています。米国は、中国のAI（人工知能）、核兵器、極超音速兵器開発など軍事応用技術の開発を阻止しようとしており、中国に対する米国とその同盟国からの圧力が強まる中、同国は独自技術開発力の強化を狙っています。

■ 日本企業へも影響

こうした米国の動きは日本企業にも影響が及ぶとフィナンシャル・タイムズは報じています。米国は現在、日本、オランダとの3カ国協定について協議しています。日本とオランダの半導体製造装置大手が中国に先端製造装置を輸出しないよう求めるとのことです。バイデン大統領と中国の習近平（シー・ジンピン）国家主席は22年11月14日、インドネシア・バリ島で会談した。フィナンシャル・タイムズによると、対面での初の首脳会談で両氏は米中関係のさらなる悪化を避ける道を模索したとのこと。その一方で、バイデン氏は国家安全保障に関連する分野では手加減しないと強調しています。

今月のTOPICS

リストに掲載された企業は次の通りです

1. Anhui Cambricon Information Technology Co.
2. AVIC Research Institute for Special Structures of Aeronautical Composites
3. AZUP International Group Co.
4. Beijing HiFar Technology Co.
5. Beijing Machinery Industry Automation Research Institute Co.
6. Beijing UniStrong Science & Technology Co.
7. Beijing Vision Strategy Technology Co.
8. Cambricon (Hong Kong) Co.
9. Cambricon (Kunshan) Information Technology Co.
10. Cambricon (Nanjing) Information Technology Co.
11. Cambricon (Xi'an) Integrated Circuit Co.
12. Cambricon Jixingge (Nanjing) Technology Co.
13. Cambricon Technologies Corp.
14. CETC Cloud (Beijing) Technology Co.
15. CETC LES Information System Group Co.
16. China Electronics Technology Group Corp. No. 28 Institute
17. Chinese Academy of Sciences Institute of Computing Technology
18. Guangdong Qinzhi Technology Research Institute Co.

今月のTOPICS

19. Hefei Core Storage Electronic Ltd.
20. Key Laboratory of Information Systems Engineering
21. Nanjing Aixi Information Technology Co.
22. Nanjing LES Cybersecurity and Information Technology Research Institute Co.
23. Nanjing LES Electronic Equipment Co.
24. Nanjing LES Information Technology Co.
25. PXW Semiconductor Manufactory Co.
26. Shanghai Cambricon Information Technology Co.
27. Shanghai Integrated Circuit Research and Development Center
28. Shanghai Micro Electronics Equipment (Group) Co.
29. Shanghai Suowei Information Technology Co.
30. Suzhou Cambricon Information Technology Co.
31. System Equipment Co. of the 28th Research Institute (Liyang)
32. Tianjin Tiandi Weiye Technologies Co.
33. Xiong'an Cambricon Technology Co.
34. Yangtze Memory Technologies Co.
35. Zhongke Xinliang (Beijing) Technology Co.
36. Yangtze Memory Technologies (Japan) Inc.

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。



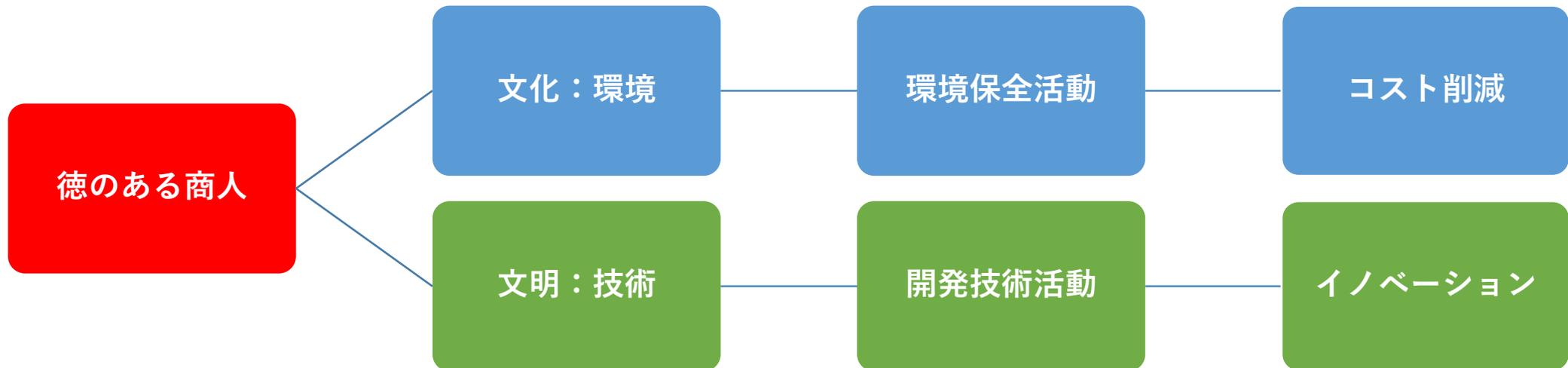
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

* サンシングループ経営理念

私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の**文化・文明**発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識。

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで**環境MSを整備**。

2004年～

グループ企業体の発足に伴い**経営理念**を創設。 **CSRを能動的に展開**。

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定。

2020年～

CSV経営を宣言， **ESGとSDGs**を重視。

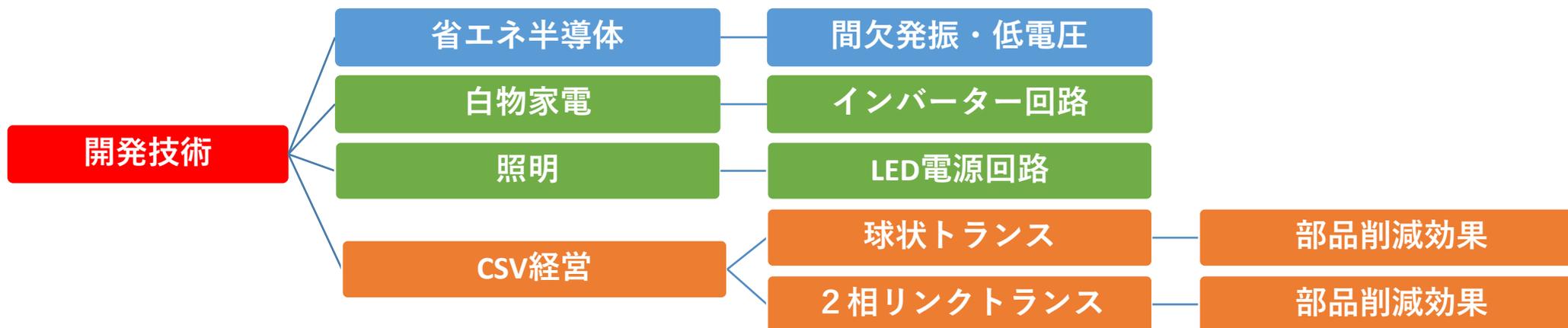
3. コスト削減実績

- **紙/ゴミ/電気**，三種の神器，徹底削減の継続
 - **テレワーク**による電気/交通費削減
 - 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
 - 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
 - コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント
- ⇒ **グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！**

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- ・ 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト = 価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

6. まとめ

- ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- 事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- 環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- サンシングループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組みます！

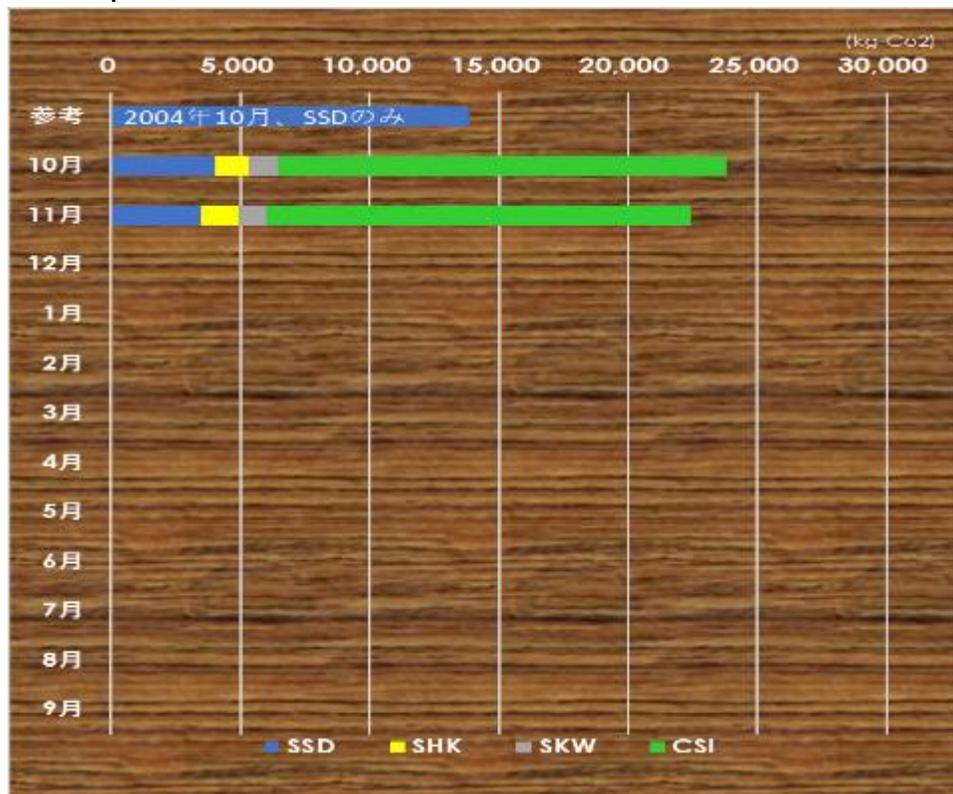


活動報告

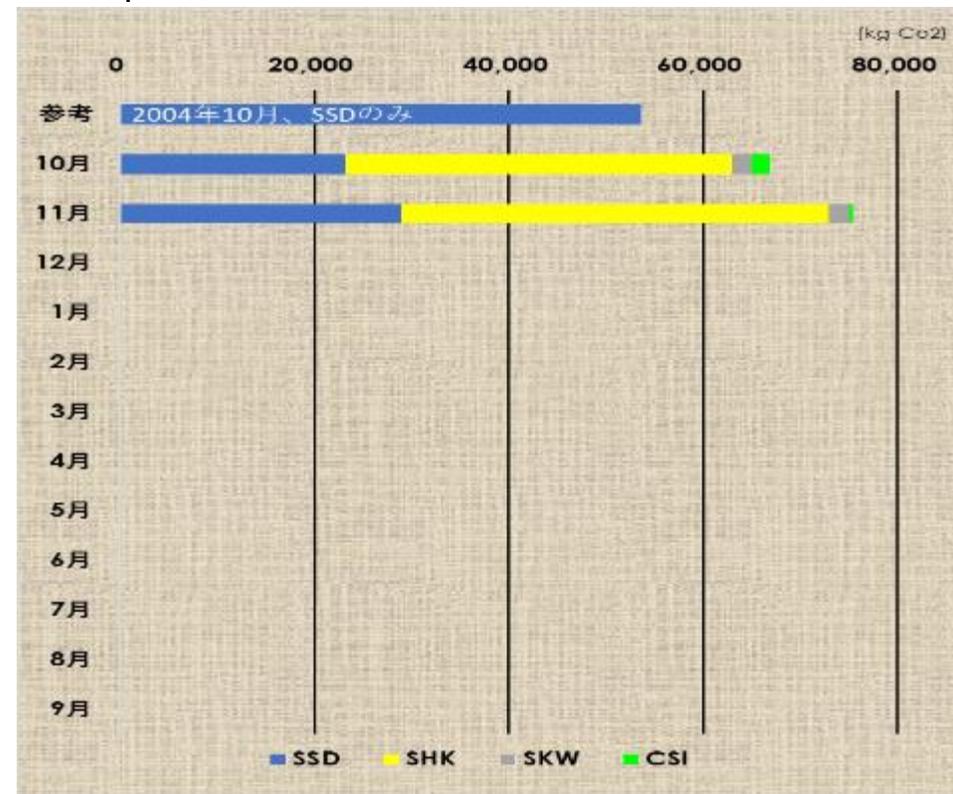
- ① サプライチェーン排出量
- ② 廃棄物排出量
- ③ 電力使用量

SSGサプライチェーン排出量

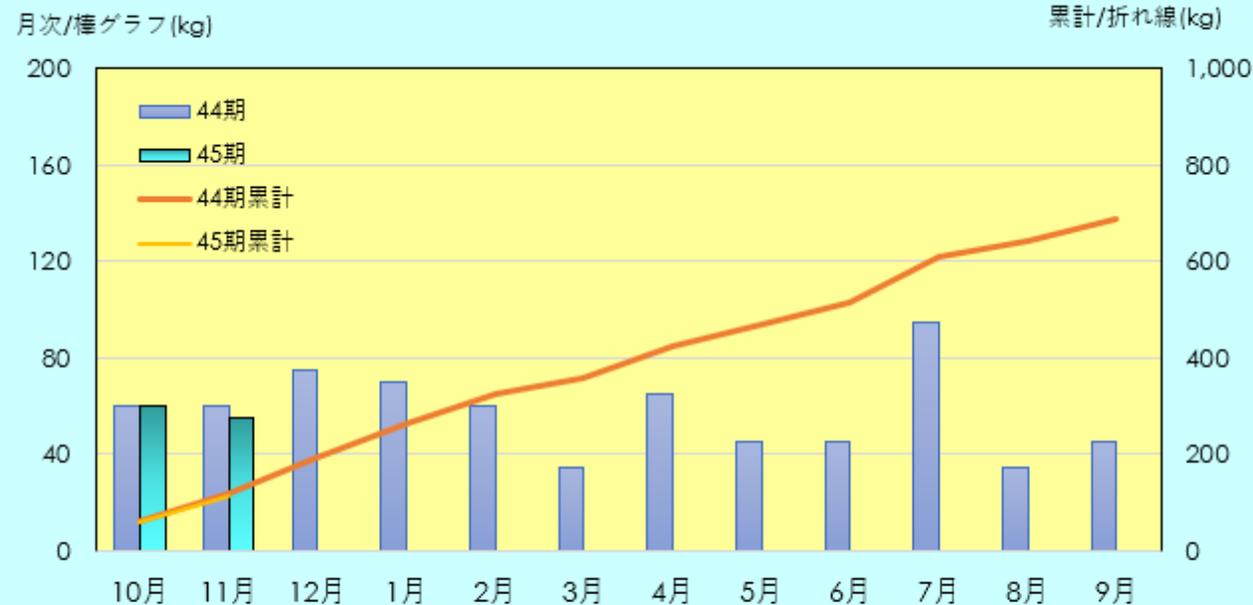
- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）



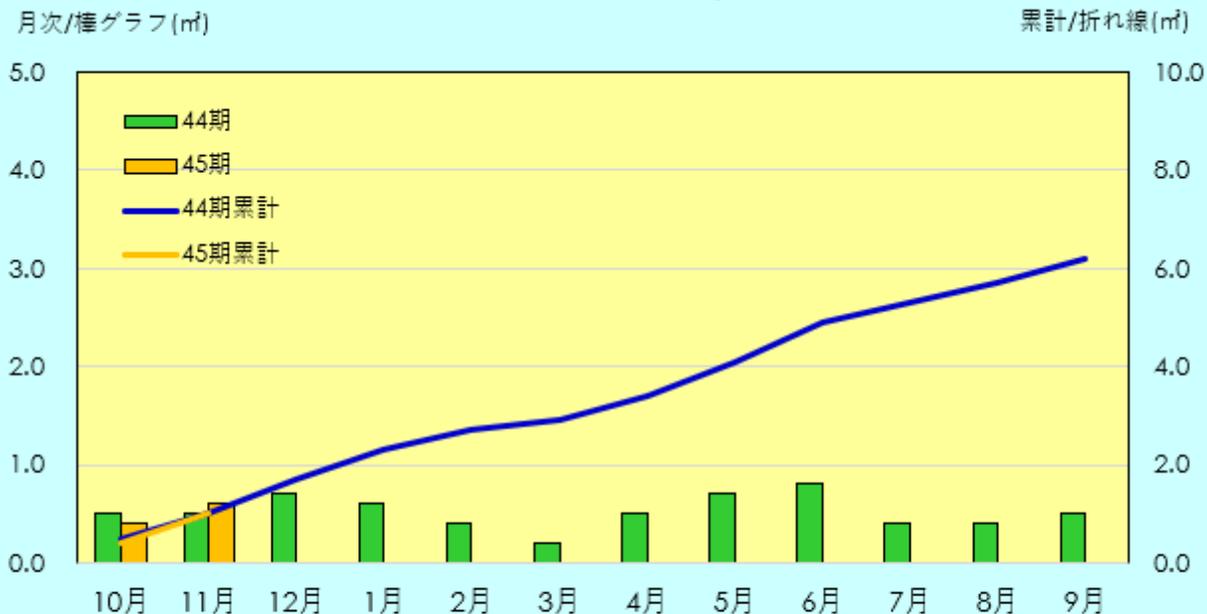
- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



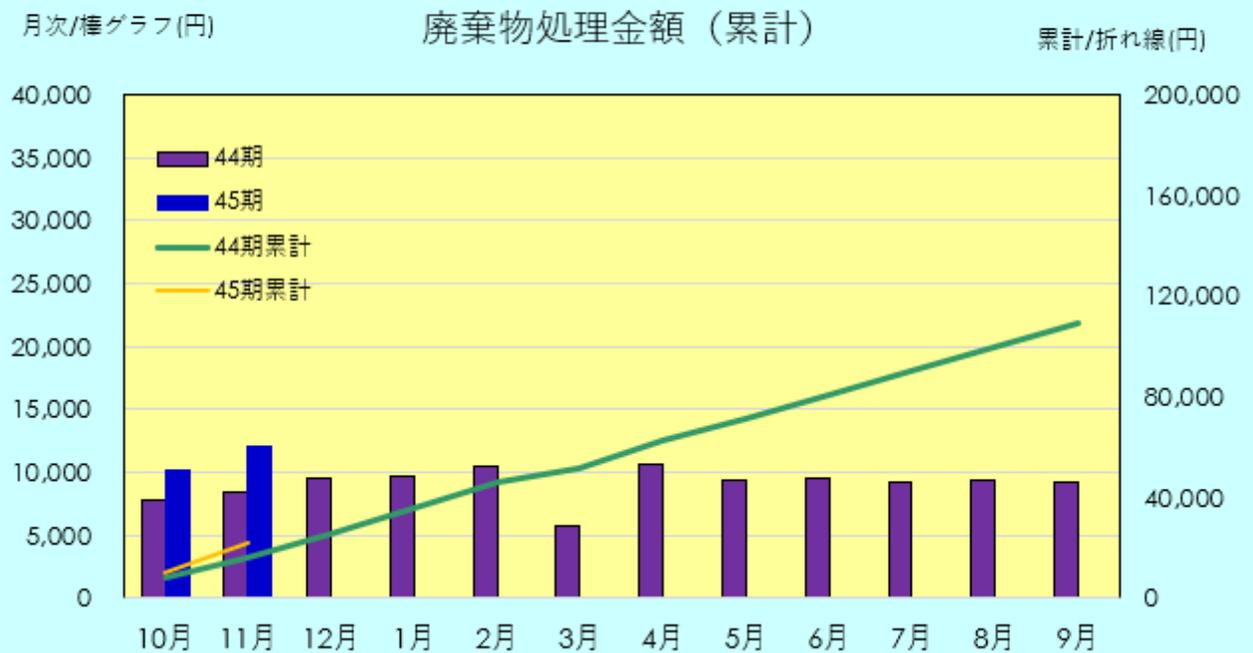
一般廃棄物 (SSD/本社)



一般産業廃棄物 (SSD/本社)



廃棄物処理金額 (累計)



45期廃棄物処理金額



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kwh)

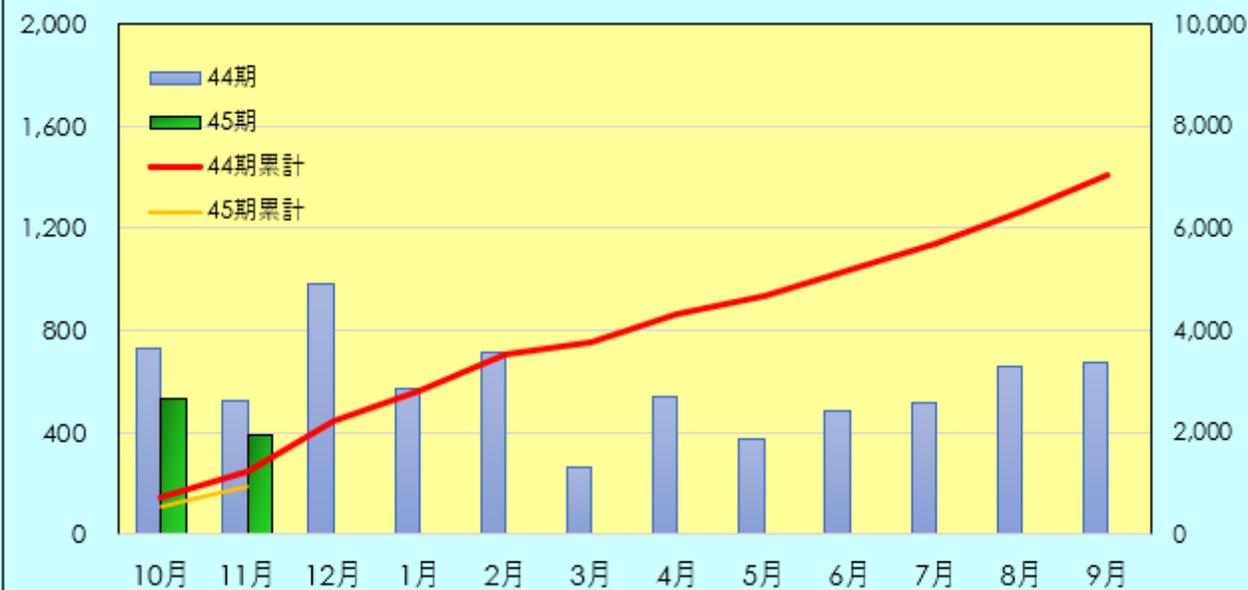
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(kwh)

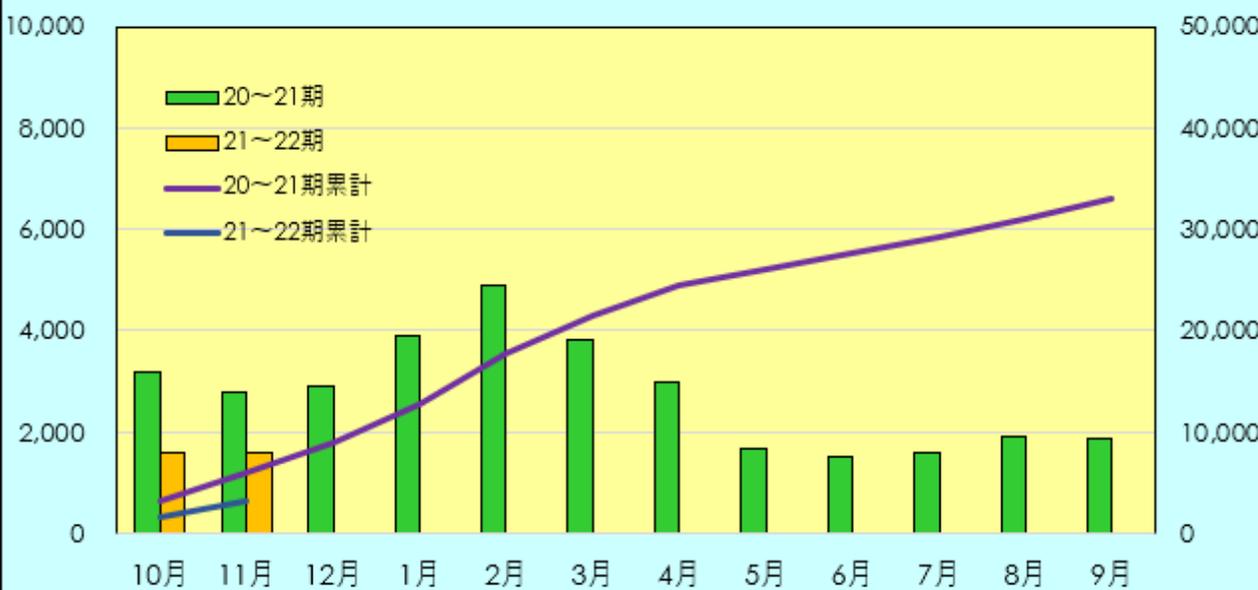
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

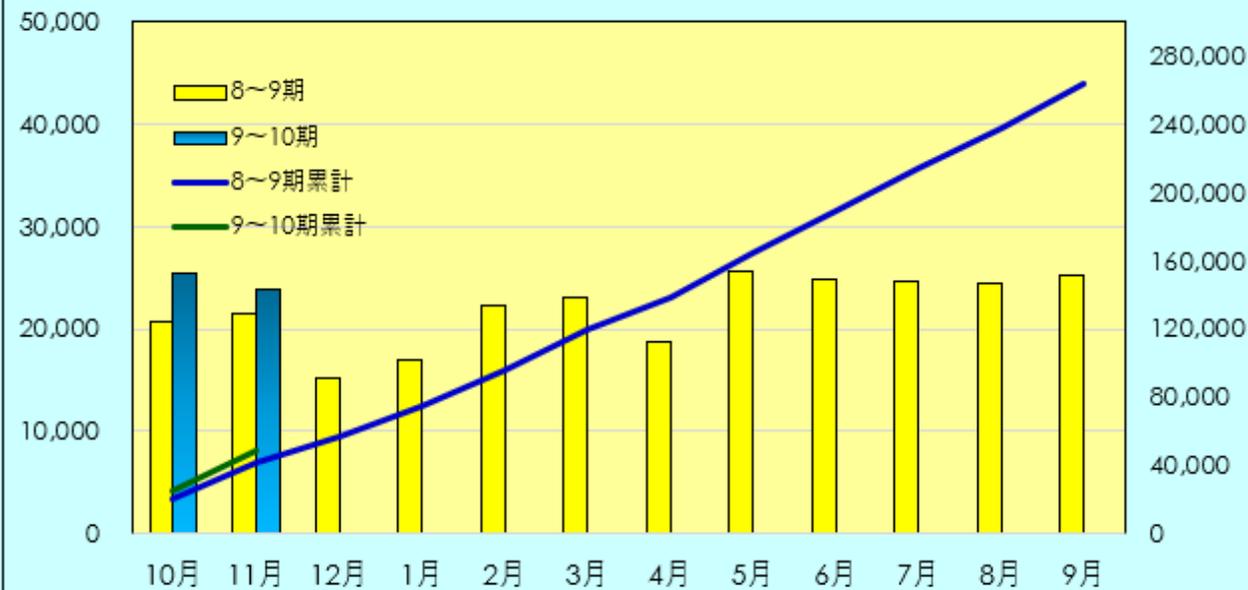
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

●サンシン電気本社エントランス 四季飾り

現在、サンシン電気本社エントランスにクリスマスツリーが設置されています。雛人形、桜、端午の節句、七夕、ハロウィン、紅葉・・・と季節に応じた飾りつけを行っています。飾りつけは各部署が輪番制で行っています。

エントランスはガラス張りなので、外からもよく見えます。じーっと覗き込んでいるお子さんもよく見かけます。近隣の方や来客の方に楽しんでいただけるよう、これからも工夫してまいりますので、お近くにお越しの際はエントランスの飾りに目を向けてみて下さい。お正月もお楽しみに！



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（11月参加人数：延べ3名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 家庭犬1年生から学べる「ドッグライフアカデミー」を創設。
アカデミーを通して、社会貢献できる人と犬の育成を目指しています。
- 学習塾において生徒のコーチング+学習支援事業を実施（ミタスライフ）

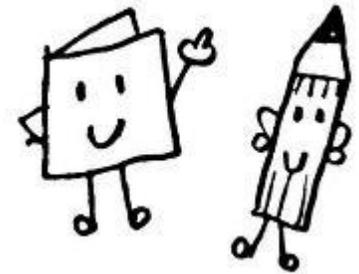


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績6名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 勤続表彰者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2022年5月更新）⇒6年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年～2021年）
- 東京都より「スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）
- メンタルヘルスケアの一環として従業員用オンライン相談フォームを設置（海外拠点からも投稿可能、匿名でも投稿可能、秘密厳守）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・情報セキュリティ・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシングループ石井代表と選抜メンバーによる「CSV研究会」を開催中
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA取得や資格取得を積極的に支援（毎年3～4名利用）
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



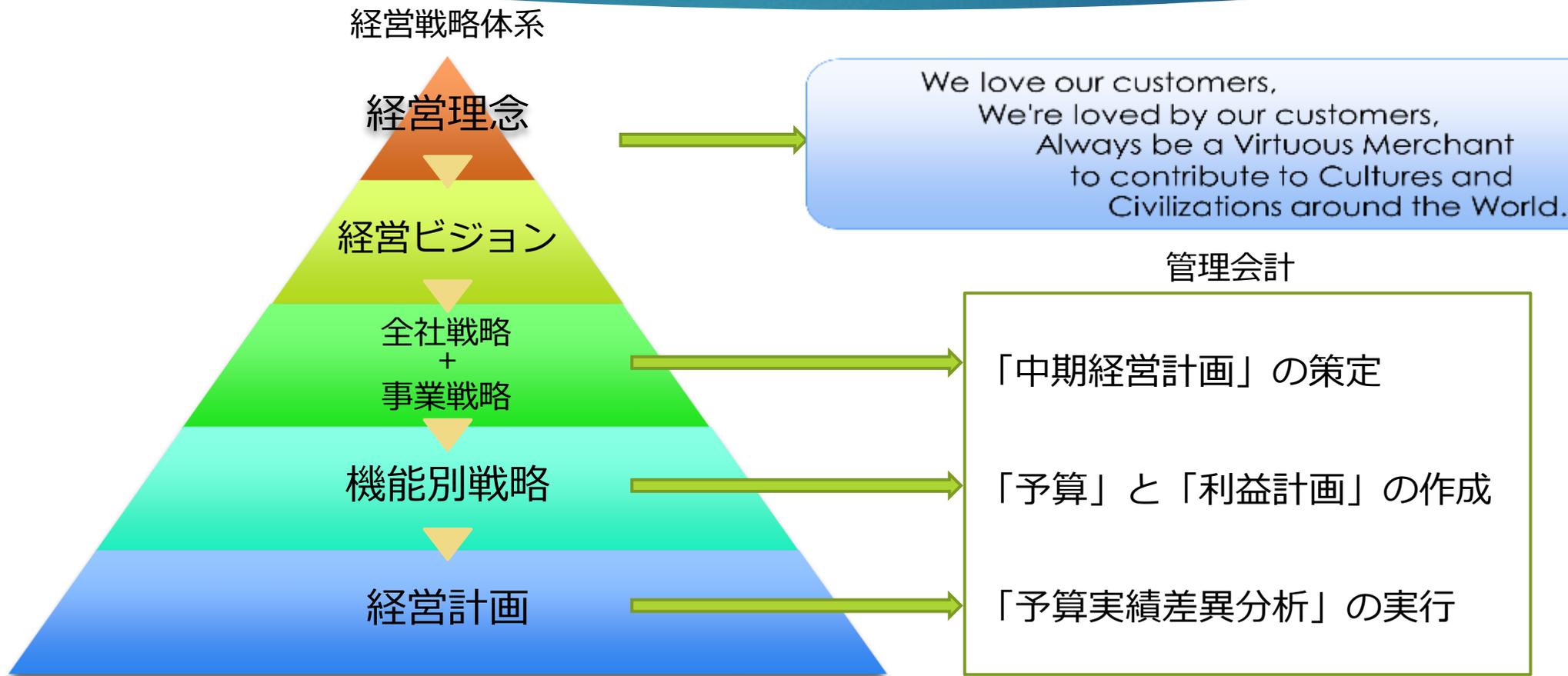
サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

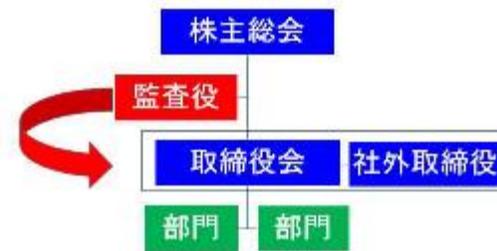
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、13ページ。

CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、14-16ページ。

サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

マネジメントシステムの基本構成

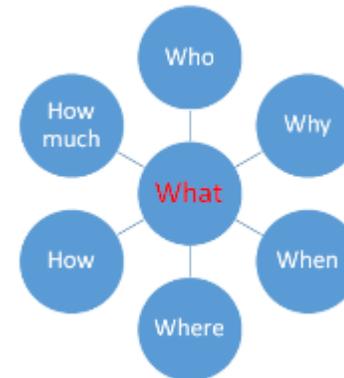


マネジメントシステムのレビュー



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、48ページ。

ビジネスの5W2H



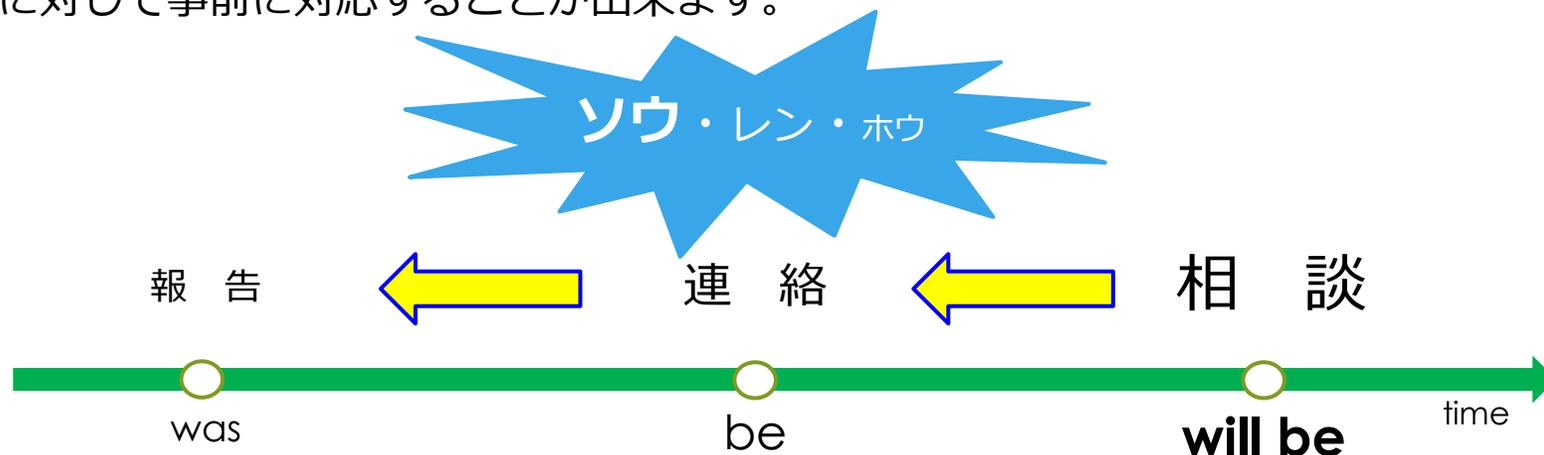
PDCA→P' サイクルの概念



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、42ページ。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗[2011]『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、166ページ。



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

2022年も間もなく終わりを迎えます。今年は相変わらずのコロナ禍もありますが、ロシア-ウクライナやミャンマーでの紛争、北朝鮮のミサイル等、安全と平和について考えさせられる年でもありました。安全は対岸の火事ではなく他山の石であるという意識を持たねばならないと思う次第です。2022年もありがとうございました。2023年もどうぞ宜しくお願い致します。